



ひと・まちが輝く 未来創造・港湾都市 MAIZURUを目指して

あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、清々しく希望に満ちた「新春」をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

明治150年を迎えた昨年は、旧軍港四市のフォーラムや防衛省とともに行った明治150年記念セミナーなど、改めて明治期を振り返ると同時に、先人から引き継いできたこの素晴らしい舞鶴の魅力を見直す取り組みに注力してきました。

私は「地方創生の原点」は、市民がこのまちに愛着と誇りを持つことが最も大切だと思っています。このまちで生まれた子ども達が、豊かな自然、文化、歴史を知ること、このまちを好きになり、住み続けたいと思えるまことにしたいと思っています。

これまでのまちづくりは「交流人口300万人・経済人口10万人」都市・舞鶴を政策目標に掲げ、引揚記念館収蔵資料の「ユネスコ世界記憶遺産」登録や旧軍港四市の歴史ストーリーの

目指して「ひと・まちが輝く 未来創造・港湾都市 MAIZURU」を都市像に掲げてまいります。

また、まちづくりの基本理念を「次代を担う子どもたちに夢と希望を、年寄りには感謝を」とします。将来担い手となる若者や子ども達の郷土愛を育み、夢や希望を持ち、その夢を叶えることができるまちを目指すとともに、私たちが育て、このまちを築きあげてこられた世代の皆さまには、敬意と感謝を表すことはもちろんのこと、知恵と経験を生かして、生きがいをもって地域で活躍し続けることのできるまちを目指してまいります。

かつて、人は厳しい自然環境の中で、人と人とのつながりを大切にし、コミュニティの中で生活を営んできました。時代が科学技術の発達した現代へと移り変わり、社会が成長から成熟へと転換する中で、都会を中心に、コミュニティに頼らなくても生活ができるようになり、人と人とのつながりが希薄になっていきます。

全国的に、東京一極集中、地方都市の人口減少が課題となっています。都会へ「ヒト」や「モノ」を送っている地方が衰退すれば、都会も衰退し、日本全体が衰退することから、日本全体の活力を維持していくには、都会と共存できる地方拠点都市を維持していく必要があります。

私たちの住むこの舞鶴は、日本海側の重要な拠点となる地方都市であり、引き続きその役割を担っていか

「日本遺産」認定など、本市ならではの魅力を引き出し、価値を高め、広く発信することで、市民の皆さまがこのまちに誇りを持つとともに、国内、海外の人からも注目していただけるような施策を計画的に進めてまいります。

その成果として、平成23年に約153万人だった交流人口は、平成29年には約283万人まで急増し、経済人口も約9万8,500人となる中で、市民の皆さまがまちに誇りを持ち、行政と一緒に元気なまちづくりを頑張ろうと思ってくれた土台、企業等に投資や連携をしていただき、まちづくりを手伝ってもらうことのできる土台ができたのではないかと考えています。

また、市役所の運営については、民間企業のようにコスト意識を大切に、無駄のない効率的な行政運営を常に意識し「予算や人の削減、縮小」といった従来型の行革ではなく、将来

ければいけません。そのためには、地域が元気で、都会と共存していくことのできるまちづくりを進めることが必要であると思っています。

そうした思いの中で、本市の目指すべき「将来のまちの姿」として、昔のように人と人とのつながりを大切にしながら、都会にはない豊かな自然、文化、歴史に触れることができ、一方で今後、さまざまな分野で普及するといわれ第4次産業革命と呼ばれるAI（人工知能）やICT（情報通信技術）といった先端技術の導入を積極的に行うことで、市民が快適で心豊かに暮らすことのできる「便利な田舎暮らしができるまち」を実現していきたいと考えています。

また、まちの主役である市民や事業者の皆さまが、さらに活躍していただくことのできる「市民（事業所）が元気なまち」を目指すとともに、各界各層との連携や本市のまちづくりを応援していただける企業等との連携、京都府北部5市2町による広域連携を積極的に行い、「多様な連携のもと、持てる資源を効果的に活用するまち」を目指してまいります。

こうしたまちづくりを実現する中で、このまちで「生まれ」「育ち」「学び」「働く」サイクルを強化し、「住んでみたいまち、住み続けたいまち」にしていきたいと考えています。

この節目となる新たな年を迎え、これまで取り組んできました「誇りを

を見据え、公共施設マネジメントや債権管理の適正化、人事評価制度の導入、受益者負担の適正化など、市民ニーズや社会情勢の変化に対応するための行財政改革を鋭意進めてきたところです。

本年は、「平成」から元号の変わる新たな時代の幕開けの年です。本市においても、次の8年間に向けた「第7期舞鶴市総合計画」のスタートを切る年であり、大きな巡り合わせを感じています。

4月からスタートする次期総合計画では、市民と行政が、共に未来に向けた「ひとづくり」「まちづくり」に取り組む「未来を拓くまち」を目指します。また、本市がこれまで担ってきた日本海側における「国防」「海の安全」「エネルギー」「ものづくり」「観光」の拠点としての重要な使命・役割を将来も果たしていくことのできる「国際交流・港湾都市」であり続けるまちを

もてるまちづくり「市内外に注目してもらえるまちづくり」の成果を最大限に活かし、さらに未来へつなげ、飛躍し、先人から引き継いできたこの素晴らしい舞鶴を50年、100年先の未来においても輝き続けるまちにしていきたいと考えておりますので、本年も変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

舞鶴市長

多ク見良三

